

題名

日常の技工作業を理工学で検証する
～北九州の先生と共に行った5つの実験～

抄録

生まれも育ちも北九州で、6年前にこの地で開業いたしました。博多メディカル専門学校で非常勤講師をしている関係もあり、歯科医師の先生から材料に関する質問を受ける事があります。

「印象採得後すぐに石膏を流すべきだという人もいるし、消毒の為にしっかり固定液に漬けた方が良いという人もいるけど、消毒中に変形は起こっていないのか?」「12%金銀パラジウム合金は天然歯に対しては硬すぎるという意見は本当だろうか?」「どんな補綴物でも、急速加熱型の埋没材で作って本当に適合してるのか?」「ジルコニアブリッジが適合は問題なさそうなのにセット後に割れることがあるんだけど、どうしてだろう?」などなど。「メーカーはこの様に言っています」「おそらく大丈夫です」とは答えたくないで、可能な限り自分で実験してみる事にしています。歯科医の先生と一つ一つの作業行程を確かめ、再現性の高い理工学的なアプローチで解決していく事が、ラボラトリー（研究所）のやり方だと考えているからです。

今回はその様な歯科医院からの質問を受けて、実際に実験を行って臨床的な最適解を探った5つのケースを紹介させていただきます。天然歯補綴からインプラント補綴まで、「日本歯技」に掲載した論文等を交えて解説いたします。